

小まめな手洗いが必要 規則正しい生活が大切



感染防止のため、小まめな手洗いは大切
＝加東市内

新型コロナウイルスによる感染が拡大し兵庫県内でも感染者が確認されている。市民に不安が広がる中、あらためて同ウイルスの特徴や予防策について公衆衛生が専門の長江利幸・県加東健康福祉事務所長(62)に聞いた。
(聞き手・中西大二)

県加東健康福祉事務所長

長江利幸氏に聞く

■このウイルスは怖いのか

従来のコロナウイルスは6種類ある。そのうち日常的に感染するのは4種類。残り二つが、2002年に発生した重症急性呼吸器症候群(SARS)と2012年以降に流行した中東呼吸器症候群(MERS)。それぞれ亡くなる人の割合は9・6%と34・4%と非常に高かった。一方、中国CDC(疾病対策センター)によると、今回の新型は2・3%と低い。日本では軽症患者が多いため、さらに低くなると思われる。だから

ら、それほど怖がる必要はない。ただし高齢者や糖尿病など持病のある方は注意してほしい。

■感染しないためには

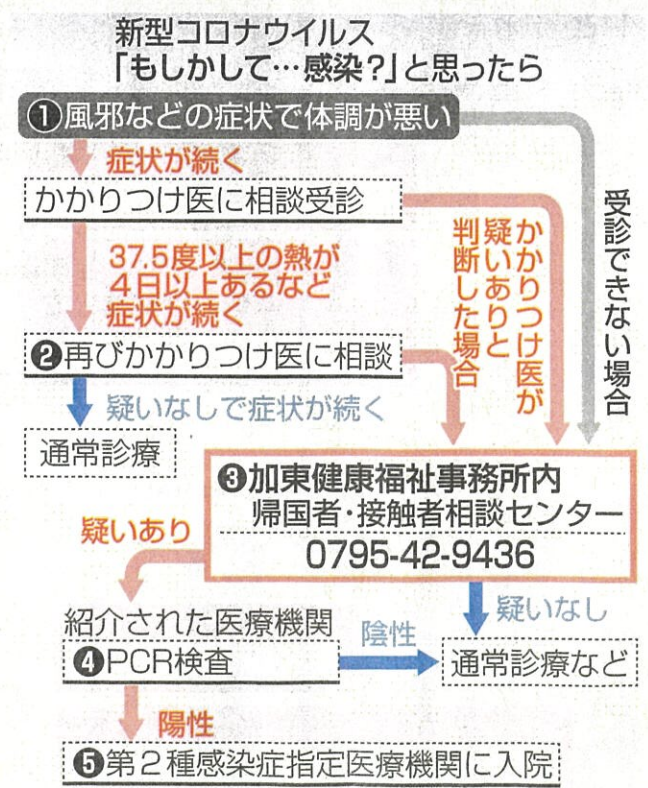
せきエチケットが大事だ。マスクだけに限らず、せきをする時はハンカチやティッシュで代用しても構わない。小まめな手洗いも必要。日常生活では不要不急の外出は避けた方がいいだろう。密閉された狭い空間で不特定多数の人が集まる場所は注意してほしい。

■効果的な薬は

抗HIV薬の治験が始まっていると聞けが、現段階では直接に有効な薬はまだない。開発するには時間がかかるだろう。陽性と判明すれば入院で症状に合わせて治療となるが、日本では軽症例が多く、安静にしていれば快方に向かうケース

が少なくない。ただし、薬がないので自分の免疫力で直すしかない。だから日常生活の健康管理を徹底し、規則正しい生活を送ることが大切だ。

もしもの場合は… かかりつけ医に電話相談



新型コロナウイルスによる肺炎が広がっている。「もしかして—」と心配になった時、北播地域では、どうすればいいのか。県加東健康福祉事務所に聞きました。
(3面参照)

- ①風邪などの症状で体調が悪い時は、まずかかりつけ医に電話で相談しましょう。その後、受診し風邪などと診断されれば、お薬をもらって自宅で静養してください。
- ②薬を飲んでも風邪などの症状が続き、37.5度以上の熱が4日以上続く場合は、再び、かかりつけ医に電話で相談を。医師が疑いがあると判断した場合は加東健康福祉事務所内にある「帰国者・接触者相談センター」に連絡します。
- ③同センターが渡航歴や感染者との接触歴などを聞き取った後、センター

による判断で適切な医療機関を案内します。

- ④そこで医師が「感染の疑いがある」と判断すれば、のどなどの粘膜とたんを採取。健康福祉事務所と連携し、県立健康科学研究所(加古川市)へ運び「PCR検査」を実施。陽性か陰性かを判断します。一方、国の政策によって、今後、院内感染対策が整った医療機関が直接PCR検査をするケースが増えることが考えられます。PCR検査とは検体を試薬に混ぜて特定の遺伝子が増えるかどうか調べる解析法です。
 - ⑤陽性と判明したら北播磨地域の感染症指定医療機関に入院することになります。ただし感染症に対応できる病床に限りがあるため、病状によっては、同地域以外の病院で入院することもあります。
- ※帰国者・接触者相談センター ☎0795・42・9436 (平日の午前9時～午後5時半) ▽県のコールセンター ☎078・362・9980 (休日と夜間)
(中西大二)